

「人口減少社会における 地域社会の再創造」

会場 島根県立大学講義研究棟 中講義室5 または、島根県立浜田高等学校

曜日・時間 講座1:水曜日 18:00～19:30 講座2:土曜日 13:30～15:00

講座 1 平日コース(現代社会) サブテーマ:地域社会の再構築

申し込みNo.	講師名	テーマ	概要	開講日	会場
1 (リレー講座すべて)	2 松永 桂子	地方における産業振興の手法	地方の産業振興は、都市部の産業振興の手法とは異なる。都市部では中小製造業の振興が主であるが、地方では第一次産業や建設業も含めた総合的な政策が必要である。したがって、地方の産業振興ビジョンは、支援対象が広くなり、経済波及効果の少ない施策メニューとなりがちである。浜田市が市町村合併を期に、産業振興ビジョンを今年度内に策定予定であり、浜田市の産業振興の手法、望ましい形について考えたい。	4月12日	県立大学
	3 寺本 恵子 (邑南町)	しあわせの条件づくり	全国一の高齢者県に暮らす私たちは、自ら生き続けたいと願える地域社会づくりに向けて、もてる知恵と力と一人一人の思いをつなぎ合わせながら、その条件づくりを進めることを迫られている。高齢化に歯止めがきかない山間地での私たちの取組を通して、「しあわせ」の条件とは?そしてそれをどうやって一つ一つ作り出して行くのかを一緒に考えてみる。	4月26日	浜田高校
	4 堀内 好浩	人口減少社会の進展と青少年の育成	人口が減り続けることへの不安が国民に広がっている。人口の減少が進み、医療、年金、介護といった現行の社会保障制度が立ち行かなくなるという懸念だけでなく経済や教育といった面でも大きな影響が考えられる。青少年の育成にどのような対応が必要なのかを考察する。	5月10日	県立大学
	5 高橋 憲二 (女子短大)	市町村合併と高齢者福祉	本県では市町村合併により、59市町村が21市町村に半減した。中山間地域では少子高齢化に歯止めのかからない中での合併となり、福祉サービスの低下が懸念されている。また、高齢者への介護保険制度による施設ケアや在宅ケアの効果と限界が顕れている。中山間地域における高齢者福祉政策を再検討し、地域住民による協働・共生の地域ケアのあり方を展望する。	5月24日	県立大学
	6 三島 みどり (看護短大)	性感染症は身近にある	わが国では主として若い年代層に性感染症が広がっており、島根県内においても同じ状況にある。性感染症の広がりはその国の社会的成熟度を表し、一人ひとりの人間観が反映されているともいえる。自らの、また相手の性的健康を守るために、性を正面から学習してみませんか。	5月31日	県立大学
	7 井上 定彦	協働による地域社会づくり	いまの地域と国は、明治維新以来の大変革期に入っている。中央や行政に依存して地域社会を維持していけるような時代は終わった。ひとりひとりの知恵・汗の地域協働(行政を含めて)で自立にもとづく地域づくりに取り組む現代の地域文化が根づかなければ地域は衰退する。「地域自立」「協働」というキーワードで島根の地域づくりを考える。	6月21日	浜田高校

講座 2 土曜コース(文化) サブテーマ:地域文化を見直す

申し込みNo.	講師名	テーマ	概要	開講日	会場
8 (リレー講座すべて)	9 瓜生 忠久	映像作品から考える —地域社会—	昨年の夏から、NHK・BS2で「男はつらいよ」「寅さんシリーズ」の放送が始まった。1969年の第1作から1995年の第48作まで、全作品が放送されるという。「東京は葛飾柴又、帝釈天で産湯」を浸かった寅さんであるが、彼はまた4半世紀にわたって、日本全国を旅した放浪者でもあった。このシリーズを中心にして、映画・映像作品に描かれた日本と日本人の「原風景」と「地域社会の存在感」そして「将来への展望」を探ってみたい。	4月22日	県立大学
	10 山下 一也 (看護短大)	物忘れは魚で予防できる	「最近、もの覚えが悪くなったなぁ」なんて思うこと、ありませんか? 「高齢者の物忘れは生活習慣病」という新しいとらえ方が現在注目されている。バランスの取れた食事や趣味を楽しむ心の余裕が脳の老化を防ぐことができることが、医学的に明らかになってきている。元気な高齢者になるために、今日から自分の生活を見直してみませんか。	5月13日	県立大学
	11 李 暁東	地域からとらえる日中関係	今日、商品、人、資本、情報が国境をもとめず移動しているグローバル化のなかで、私たちは、自分たちが生活している地域について考えるとき、日本という枠のなかで考えるだけでなく、北東アジア、そして、世界というより広い視野で考えなければならない。本講座は、日中関係を中心に、国際関係が地域に与える影響について考えると同時に、地域の視点から北東アジア国際関係を捉えなおしたい。	5月20日	県立大学
	12 林 秀司	都市と農山漁村の交流	農山漁村地域は、人口の減少、少子・高齢化、それまでの経済的な基盤であった農林水産業の衰退、などに悩んでおり、都市との交流にひとつの活路を見出そうとしている。2005年から島根県が推進している「しまね田舎ツーリズム」もそのひとつだといえる。一方、都市住民の中にも、農山漁村や農林漁業に対する関心が高まってきている。グリーン・ツーリズムを中心に、都市と農山漁村の交流の可能性を考えてみる。	6月 3日	県立大学
	13 川中 淳子	地域と教育	近年、教育に関しての様々な問題への指摘が増加している。また、その対応として、スクールカウンセリングの導入など、学校では様々な取組みがなされている。本講座では、近年指摘されている様々な問題の中から、特に不登校を中心的テーマとして取り上げ、不登校とはどのような状態か、近年の状況はどうなっているか、これからの支援はどうあるべきかについて考えたい。	6月17日	県立大学
	14 豊田 有恒	地域文化と歴史 —日本語と韓国語—	日本語と韓国語は、きわめて似ていると思われているが、仮に英語とドイツ語を兄弟だとすれば、又従兄弟くらいの関係でしかない。英語とドイツ語のあいだには、有名なグリムの法則があるが、日韓両国語のあいだには、まともな言語学的なアプローチがない。ここでは、日韓の言葉を比較して考えていきたい。地球上で唯一の日本語の親類の言葉が、わかるようになるはずである。	7月 1日	県立大学